

ga!kuto

学塔



Spring 2015

No.134



① 好きなことをする
天職に出会えなくても、仕事は充実する

② 研究者と英語
日本人研究者はなぜ英語を勉強しなければならないのか

③ 研究者の幸福学
研究者も幸せになりたいのです

④ イノベーションについて
知っておくべきこと
Innovation=「技術革新」ではない

⑤ 知的しなやかさ
結果を出すリーダーは
みな軸がブレている

⑥ 研究者のあたらしい働き方
///スラッシュのあるキャリア

⑦ 抗脆弱性(アンチフラジャイル)とは
想定外の衝撃
「ブラックスワン」に備える

⑧ 賢い選択をするには
幸せな選択と不幸な選択を分つもの

⑨ 創造的な仕事をするために
社会に創造的価値を提供する

⑩ リベラルアーツとしての論理的思考法
英語プロポーザルライティングで
構想力を育てる

⑪ 外伝1 読書術と毒書対策
無理せず優位性を構築する

⑫ 外伝2 知的生産のための健康術
研究ができる人は
なぜ筋トレをするのか...

図書館長から
学生へのメッセージ

クローズアップ

自著を語るの
図書で紹介されている
ヒントを
ピックアップ!

自著を語る。
「研究者のための
思考法10のヒント:
知的しなやかさで人生の
壁を乗り越える」

ここから広げよう

Reading List

ブックロウのPick Upコーナー!!

企画展示「江戸時代の辞書」開催報告
SciFinder(化学情報)講習会開催報告
秋の文献検索講習会開催報告

News!

春の図書館ツアーを開催します!

特集

何ができるの?
図書館1階
ラーニングコモンズ

図書館長から学生へのメッセージ

三重大学に入学された新入生の皆さん、おめでとうございます。これからの大学生活を勉学やクラブ活動等で意義深いものにしていくと考えていると思います。皆さんの勉学を支えるために、三重大学は図書館の充実を日々推し進めています。図書館は大学の教育研究に関わる学術情報の体系的な収集、蓄積および提供を行うことで、教育研究に対する支援機能を担っています。蓄積された学術情報は、検索可能な形態で公開されることにより社会全体の共有財産に資することになります。



三重大学附属図書館も、「研究支援機能」、「学習支援機能」、「地域貢献機能」の3つの機能をサービスの3本柱に据え、研究や学習に必要な学術情報を広く収集・提供しています。大学の図書館は特に学術情報の収集能力が強化されています。具体的には電子ジャーナルや各種データベース等の学術情報を世界中から収集しています。逆に機関リポジトリというシステムで学内の研究成果を公開する仕事もしています。その他にも皆さんの毎日の勉学の場を提供し、会話可能なエリアから静音エリアさらに無音エリアが設定され、利用者の集中度によって場所を選ぶことができます。また図書館の隣の環境・情報科学館と2階の連絡通路でつながっており、発表会など広いスペースが必要な時に役立てることが可能になっています。三重大生の皆さんは、このような多機能な図書館を毎日の勉学に有効に活用してください。

授業を受け始めると様々なレポート等の課題提出が課せられます。そのようなときにWeb上の情報をコピーしてレポートを作成することは最もしてはいけないことの一つです。図書館を十分活用し正確な情報に基づいた勉学を志してください。

附属図書館長 加納 哲か のう さとし



加納 哲先生プロフィール

専門は海洋生物の特殊な生命機能について調べています。なかでもサメ類筋タンパク質の尿素抵抗性に関する研究を行っています。尿素はタンパク質分子の立体構造を壊し生理機能を喪失させます。サメの体にはこのような尿素が高濃度に含まれているにもかかわらず、正常に生理機能を維持しています。このメカニズムを分子レベルで調べています。



しま おか もとむ
島岡 要 先生

大学院医学系研究科 教授

将来研究者になることに興味をお持ちの学生さんや、研究者としての道を今まさに歩き始めた大学院生の皆さん、研究者としての心構えについて知っていますか？今のうちにしっかりとした考え方を身につけておきましょう！そのヒントが書かれている図書を、ご紹介します。



『研究者のための思考法 10のヒント：知的しなやかさで人生の壁を乗り越える』

＜羊土社, 2014.7＞
[所在] 図・展示棚 [請求記号] 407 / Sh 43

言葉にして表すことが難しい知識を、あえて文章化するチャレンジ

—この図書の執筆のきっかけを、教えてください。

三重大に来る前は、13年間ボストンのハーバード大学で研究と教育をしていました。ハーバードで大学院教育に携わるなかで学んだことは、アメリカでは研究者も若いうちから高い独立性が求められることです。自分で考えて、必要な資金を集めて、研究を実行する自主性と自立性が必要です。ハーバードの大学院教育が育

成を目指す人物象とは、独立して物事を考えることができる人、インディペンデントシンカー (Independent Thinker) なのです。しかし、インディペンデントシンカーを育てるための教科書はありませんでした。なぜなら、これは暗黙知だからです。自分の経験に加え、過去の様々な文献からの知見を動員しても、まとめて人に伝えることは簡単ではありません。その様な暗黙知を、あえて体系的に文章に表すというチャレンジを行ったのが、この本です。個人のひとりよがりな意見としてとどめるのではなく、心理学や社会学の重要な知見を援用し正統性を持たせ、読者が信頼できるアドバイスを書くことを意識しました。

10のヒントは、すべて繋がる

—先生は、この図書で10のヒントを書いていらっしゃいます。大学生にとって、あえて選ぶとすれば、10のうちどれが一番重要ですか？

この図書を通しての一番のメッセージは、5章の「知的しなやかさ」です。知的しなやかさは物事を多面的に考えることができる力のことです。これを中心にしてすべてが繋がります。

例えば、これからの学生生活で、皆さんは「好きなことを見つけて好きなことをやりなさい」と、大人「からいわれることがあるかもしれない」と、また就職活動の時も、自己分析をして自分の目標を考えることになると思います。しかし知っておいて欲しいのは、大人「でさえも、自分の興味が持てる好きなことを見つけることができません。はぐくむずかだ」と思います。大人「は自分のことを棚に上げているかもしれない」という相対的視点が大切です。

本当にやりたいことは、様々な学問を勉強し、様々なプロジェクトに真剣に取り組むというプロセスを経て、やっとうつつらとわかつてくるものです。性急さや結果を過度に重要視することで、かえって本来大切なことから遠ざかってしまうことがあります。やりたいことがわかるという結果ではなく、そこへのプロセスで培われる知的しなやかさを身に付けることが長期的には重要なのです。

失敗は、ある試みをして、それがうまくいかなかったということを学べる機会

—今後学生の皆さんは社会へ出て、失敗をしたり、努力しても報われず、評価が得られない「人生の壁」に出会うこともあるかもしれません。その際は、どのよう

他の国と比較しても、日本人は失敗を恐れる傾向が非常に強いと思います。恥をかくことを恐れます。しかし、失敗を失敗ととらえることに問題があるのです。何かを成し遂げようと思えば、挑戦しなければならず、挑戦すれば失敗を完全に避けて通ることはできません。失敗はある試みをして、それがうまくいかないということを学べる機会だととらえて欲しいです。成功か失敗かは、結果論にすぎません。成長するためには挑戦が絶対に必要です。失敗それ自体が問題なのではなく、失敗を恐れて新たな挑戦ができなくなることが問題なのです。

大学の授業では、質問する練習を！

—三重大生へのメッセージをお願いします。

私は授業で学生に「大学の講義を、映画や演劇を鑑賞するような態度で受けてはいけない」と言っています。講義室へ来て、先生の話聞いて、ノートをとって、いい話を聞いたと鑑賞してはだめです。少しでも良いから先生やクラスメートに質問してください。質問するというのは行為は自分の無理解を曝すことで、恥であるという本では誤解されることもあります。しかしこれは大きな間違いです。質問する、つまり問いを立てるとは、深い理解の上に成り立つ非常にハイレベルの知的行為であり、新たな価値の創出につながる社会的にも意味のある行動なのです。グローバルな世界で働く場合には、会議室で質問できないければ、付加価値を生み出すことができない。残念な人「と見なされます。大学の授業を、単に知識を効率的に得る場としてだけとらえるのではなく、質問をして付加価値を創出する練習をする場である」ととらえたい。教室で質問する練習を重ねれば、将来会議室で質問できる「価値を生み出す人」になることができるでしょう。

島岡 要先生 プロフィール

三重大学大学院医学系研究科教授。
大学卒業後、10年あまり臨床医として治療に従事。ハーバード大学への留学を機会として、臨床医から研究者へ転身。専門は血管生物学。免疫細胞が体内をパトロールする働きに関連する細胞接着分子インテグリンの制御メカニズムの研究、そして血管内皮細胞の固さ制御などメカノトランスダクションを研究している。

特集

図書館1階の多くの部分は、ラーニングコモンズとしてみなさん自身がより良い学習空間を作ることができるスペースです。実際に何ができるのか、見てみましょう！

ラーニングコモンズとは？

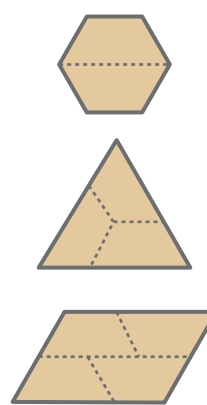
ラーニングコモンズは、ディスカッション等の学習活動を通して新しい知識を生み出すことが期待される空間です。リラックスした雰囲気の中で、利用者同士が、交流を深めたり、お互いの活動を見てアイデアを得たり、刺激をしあったりすることができます。

大学の授業では、予習や復習などの教室外の学習時間も授業の一部です。レポートを書いたり、授業に必要な調べ物をしたりするためにも、附属図書館を大いに活用してください。わからないことがあれば、いつでも図書館員にたずねてください！

席（机・椅子）

ほとんどの椅子や机が、可動式のもので、レイアウトを自由に変えて、快適な空間を作ってください！

机のレイアウト例



参考調査カウンター

情報探索で困ったことがあったら、ぜひ相談に来てください！
参考調査カウンター：平日9時～17時



パソコンコーナー

机の形状やレイアウトによって、複数の方が1台のパソコンを囲んで利用できるようになっています。またインターネットも使用できますので、情報探索やレポートを書くときなどに便利です。

Web上で論文の全文を見ることができる、電子ジャーナルも利用できます。三重大大学の電子ジャーナルリストは、附属図書館HPにリンクがあります。
[図書館ホームページ]→[論文を検索したい]→[電子ジャーナルを検索]



図書館資料

図書館入館ゲートの中にある場所です。
図書館資料を有効に使って、学習を進めることができます。



ホワイトボード・プロジェクター

ディスカッションの時だけでなく、プレゼンテーションの練習などができます。
グループ学習エリア内で自由に機器の場所を動かして、利用してください。



図書館の隣りにある、環境・情報科学館の2階にも、ラーニングコモンズがあります。同じラーニングコモンズでも、ルールが多少違います。目的に合わせて利用してください！

先輩は、ラーニングコモンズをどう使っている？聞き取り調査してみました！

古典籍の修復や、解題を書く課題に取り組むときに、図書館の1階を使いました。グループ単位での課題でしたが、机を広く使えて、作業を効率よく進めることができました！



工学部の学生さんだと思うのですが、ホワイトボードにたくさん数式を書いて、友達どうして教えあいをしている姿を見ました。設備を有効利用すれば、情報共有も容易ですね！





ここから広げよう!! READING LIST



各学部の先生からの オススメ本を紹介します!!

人文学部 稲垣 朋子先生



大阪大学ショセキカプロジェクト 編
『ドーナツを穴だけ残して食べる方法：
越境する学問一穴からのぞく大学講義』

大阪大学出版会
【所在】図・開架・図書
【請求記号】002/D85

「あたりまえ」を疑ってみる。これは、どのような学問分野を学ぶにあっても、必要とされる姿勢である。本書では、「ドーナツの穴」をキーワードに、文系・理系の研究者が、様々な観点から考察を深めている。至って真面目な論議なのだが、表紙と同様、ちょっとした遊び心も垣間見える。自分の専門に関する章から読み、そこから普段はなかなか触れる機会のない他分野にも挑戦してほしい。

教育学部 松本 昭彦先生



佐佐木隆 著
『言霊とは何か：
古代日本人の信仰を読み解く』

中央公論新社
【所在】図・開架・図書
【請求記号】121/Sa75

「人間の口から発せられたことばが、その独自の威力を発揮し、現実に対して何らかの影響を及ぼす」ことが、古代の人々の間では信じられており、それを「言霊」信仰と言う、と聞いたことはないだろうか。しかしそれは誤りである。ことばの威力に対する先のような説明は、近世の国粋主義者たちが理想的に作り上げた言霊観の影響を受けたものなのである。という論旨を、楽しく読める本である。

医学部 成田 正明先生



杉田玄白[ほか訳著]；酒井シツ現代語訳
『解体新書：全現代語訳』

講談社 講談社学術文庫
【所在】図・開架・PB
【請求記号】491.1/Su46

著者の酒井シツ先生（現順天堂大学教授）は、本学医学部の前身の三重県立大学医学部で卒業の大先輩である。本書は、かの杉田玄白によって翻訳されたターヘルアナトミアを平易な現代文に書き換えたものだ。読みやすい。図表も多い。今の目では決して気付かない細かい観察眼はまさに科学の原点である。文系の学生に特にお勧めである。なお医学部解剖学教室にはターヘルアナトミアの現物が所蔵されている。是非合わせてみてほしい。

工学部 富田 昌弘先生



A.テニスン [著]；原田宗典 訳
『イノック・アーデン』

岩波書店
【所在】図・開架・図書
【請求記号】931/Te37

小さな漁村に幼なじみのイノック、フィリップ、アニーが住んでいた。イノックはアニーに恋心を抱き、やがて2人は結婚した。幸せな時は過ぎ、イノックが航海に出たまま帰らない日々が続いた。アニーは悩んだ末、フィリップとの結婚を決意。ある日、イノックが無事帰った時、イノックは現実に驚愕した。しかし、アニーの幸せを考え、身を引くことを決意した。清らかな心と愛の尊さが描かれている。

生物資源学部 取出 伸夫先生



東京大学光合成教育研究会 編
『光合成の科学』

東京大学出版会
【所在】図・開架・図書
【請求記号】471.6/Ko26

地球規模でのエネルギーの流れと物質循環において中心的な役割を果たす光合成は、自然エネルギーを重視する昨今、様々な分野から注目されている。本書は、光の吸収から物質合成までの狭義の光合成に加え、光合成が地球環境で果たす役割、生物の多様性と光合成の意義、進化など広範の内容を最先端の研究も含めて解説しており、光合成と食糧・環境問題の関わりを深く学ぶことができる。

教養教育機構 松永 守先生



サイモン・シン [著]；青木薫 訳
『暗号解読上・下』

新潮社 新潮文庫
【所在】図・開架・PB
【請求記号】809.7/Si8/1
809.7/Si8/2

暗号をめぐる人類の歴史ドラマを著名なサイエンスライターが書き綴ったものである。前半では戦争・政争に使われた暗号や古代文字ヒエログリフの解読の物語等を紹介している。どの部分を拾っても楽しく読める。後半では、情報セキュリティを今後どのような方法で確保しようとしているのかを述べている。引き込まれて読んでいくうちに自然と暗号についての知識が身につくようになっている。



ブックロウの Pick Up コーナー!!

図書館のホームページ
<http://www.lib.mie-u.ac.jp/>
から Check it out !!

企画展示「江戸時代の辞書」開催報告

12月10日(水)～2月3日(火)企画展示「江戸時代の辞書」が開催されました。江戸時代に用いられた国語辞書・漢和辞書・漢字辞書合わせて14点をご紹介いたしました。辞書が江戸時代からとても身近なものであり、また徐々に改良が加えられ、さまざまな形式や用途の辞書があることがわかりました。なお、今回展示パンフレットの解題執筆と展示の設営を人文学部文化学科授業科目『図書・図書館史』(司書課程科目/長澤多代先生・吉丸雄哉先生担当)を受講の学生が担当しています。本学の古典籍が教育に利用された点でも画期的な展示でした。



展示設営風景

SciFinder(化学情報)講習会開催報告

11月12日(水)附属図書館2階パソコンコーナーにて、化学情報データベース「SciFinder」の講習会を行いました。化学情報協会から講師を招き、講師の説明にあわせて1人1台のパソコンで検索実習も行いました。

参加者からは、「何気なくSciFinderを使っていたので、もったいない操作をたくさんしてきたんだと思った」「普段使わないような踏み込んだ内容まで知ることができたので良かった」などの感想がありました。

SciFinderへのアクセスはこちら

[図書館ホームページ]→[海外文献を探す]→[SciFinder Academic]



秋の文献検索講習会開催報告

10月24日(金)から30日(木)にかけて、図書館主催で「秋の文献検索講習会」を開催しました。国内文献検索講習会(三重大学OPAC、WebcatPlus、CiNii)と、海外文献検索講習会(三重大学OPAC、WebcatPlus、CiNii、Web of Science)を開催し、参加者からは「今まで、なんとなく使用していたものが多かったので、今回きちんとした使い方を知ることができてよかった」といった感想がありました。秋には毎年図書館主催で文献検索講習会を開催しますが、ゼミやグループ単位での講習会の申し込みは随時受け付けています。詳細は、附属図書館Webページをご参照ください。

情報リテラシー講習会(附属図書館Webページ)へのアクセスはこちら

[図書館ホームページ]→[情報リテラシー教育支援]→[講習会TOP]

News!

春の図書館ツアーを開催します!

編入生や、大学院生を対象に、図書館ツアーを行います。ぜひご参加ください。

※学部新入生の皆さんは、このツアーとは別に「スタートアップセミナー」で図書館ツアーにご参加いただけます。

4月

13日

15日

17日

皆さまのご参加を
お待ちしております!



開催時間 12:20~12:45

内 容 図書館の各スペースやサービスの紹介

集合場所 図書館玄関ホール

展示図書コーナー新着図書 (2014年7月~12月発行分)

- 尾西康充 人文学部教授／『日本近現代文学研究』
王志松、島村輝主編、外语教学与研究出版社、2014.8 [910.26/N 77]
- 尾西康充 人文学部教授／『闇があるから光がある：新時代を拓く小林多喜二』
荻野富士夫編著、ノーマ・フィールド[ほか]執筆、学習の友社、2014.11 [910.28/Ko 12]
- 尾西康充 人文学部教授／『戦争を描くリアリズム：石川達三・丹羽文雄・田村泰次郎を中心に』
尾西康充著、大月書店、2014.12 [910.26/O 66]
- 山田雄司 人文学部教授／『怨霊とは何か：菅原道真・平将門・崇徳院』
山田雄司著、中央公論新社、2014.8 [172/Y 19]
- 山田雄司 人文学部教授／『ある歴史学との出会い：大濱徹也先生喜寿記念誌』
大濱徹也先生喜寿記念誌編集委員会編、刀水書房、2014.12 [210.04/A 79]
- 森正人 人文学部准教授／『四国遍路：八八ヶ所巡礼の歴史と文化』
森正人著、中央公論新社、2014.12 [186.6/Mo 45]
- 藤田達生 教育学部教授／『地域社会における「藩」の刻印：津・伊賀上野と藤堂藩』
三重大学歴史都市研究センター編、清文堂出版、2014.8 [215.6/C 43]
- 松岡守 教育学部教授／『知的財産イノベーション研究の展望：明日を創造する知財学』
日本知財学会知財学ゼミナール編集委員会編、白桃書房、2014.12 [507.2/C 49]
- 後藤太一郎 教育学部教授／『ワークブックで学ぶ生物学実験の基礎』
Tracey Greenwood[ほか]著、オーム社、2014.10 [461/W 35]

【見かた】 ●寄贈者 所属／『書名』著者名、出版社(者)、出版年月[請求記号]

※※編集後記※※



●表紙の写真：1階の参考調査カウンターです。参考調査カウンターでは、他の図書館からの資料の取り寄せの申し込みや資料の受け渡しも行っています。また、レファレンスサービスとして、資料探しの方法を紹介することもできます。何か情報探索で迷うことがあったら、ぜひお越しください。

今号は、「自著を語る」のコーナーで医学系研究科の島岡先生にインタビューさせていただきました。コーナーで紹介できなかった話の中で、私が一番印象に残っていることは、「大学生にとって、英語に関しては話すことよりも読み書きが重要」だとおっしゃったことです。大切なことは、英語で自分のメッセージが伝わることです。流暢な英語で話して伝えなければいけないということは無いですね。「英語でのコミュニケーション=英会話」という図式をイメージしていた私にとって、とても興味深い話でした。ふと自分が学生の時を振り返ってみると、英文を読むことに比重を置いた英語の授業が展開されていました。もっとしっかりと勉強しておけば良かったと、今更ながら思います。附属図書館の2階には、語学学習の資料が集められたコーナーがあります。皆さんも、ぜひ活用してみてくださいね!(執筆者 K.S)